

編集後記

前号の編集後記で、学生のインターネットやメールの利用開放について前向きな対応を期待した。早速、この4月の新学期から学生もインターネットやメールの利用が出来るようになった。迅速な対応を評価したい。世界に開かれた窓口を閉ざさないために、学生をはじめ利用者のモラルに期待したい。

投稿論文にカラー図版が登場しました。一般誌では当たり前のことですが、限られた予算の中で発行する広報誌としては一大決意が必要でした。ワープロやコンピュータで原稿がカラーで容易に作成できるようになった今日、いつまでも白黒に留まってははいられない。読み易く、説得力のある誌面を提供することが大切で、多少の経費の増加はやむを得ないだろう。これで投稿者が増えることを期待したい。ちょっと虫が良すぎるかな。

ATMネットワークがHIROINネットワークに加わりました。大容量のデータ通信には打ってつけの経路を提供してくれるようです。センターからの情報提供と利用についての記事を取り上げました。「TV会議システム」は日本電気による説明会の話をつまみ分けし、まとめ直していただいたものです。ご協力ありがとうございました。ATMネットワークは接続機器が高価で一般にはまだ普及していませんが、情報化社会の発展の状況からすると、そう遠くない時点で利用できるようになるのではと思います。

旧教育用端末機室などを取り壊した跡で総合情報処理センター新営工事が進んでいる。残った古い建物も外装補修工事を始めた。秋には立派なセンターが顔を見せるでしょう。センターの皆さん、今は覆いにおおわれ、騒音の真ただ中ですがしばらく我慢してください。

(川口)

弘前大学総合情報処理センター
教育広報専門委員会

川口 節 雄 (教養部, 委員長)
笠原 幹 (人文学部)
太田 誠 耕 (教育学部)
市村 雅 一 (理学部)
三上 聖 治 (医学部)
石川 隆 二 (農学部)